

平成22年度 事務事業評価シート（平成21年度実績分）

| | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|--------------|-------------|----------------------------|--------|--------------|------|----|--------------|----|--|
| 事務事業名 | 医療費適正化 | | 部課コード | 1104 | 予算事業科目 | 130802010230 | 事 | 複 | 区分 | 継続 | |
| 所管部署 | 担当部局 | 健康福祉部 | 部局長名（2次評価者） | | 岡林 敏行 | | 個別事務 | 一部 | 130802010230 | - | |
| | 担当部署 | 保険医療課 | 所属長名（1次評価者） | | 村岡 晃 | | | 全部 | 130802010231 | - | |
| | 電話番号 | 088-823-9358 | E-mail | kc-110400@city.kochi.lg.jp | | | | | | | |

1 事業の位置付け

| | | | | | | | | | | | |
|--------------|------------------------|----|-----------------------|--------|--|--|--|--|--|--|--|
| 予算科目（平成21年度） | 高知市総合計画・実施計画施策体系での位置付け | | | | | | | | | | |
| 会計 | 13 国民健康保険事業特別会計 | 目標 | 02 日いきいきと輝き安心して暮らせる都市 | 政策基本方針 | すべての市民が生涯にわたり、健康で安定した生活が送れるよう生活困窮者への適切な援助や、国民健康保険事業の健全運営、国民年金事業の推進に努めます。 | | | | | | |
| 款 | 08 保健事業費 | 政策 | 07 生活を支える社会保障の充実 | | | | | | | | |
| 項 | 02 保健事業費 | 施策 | 02 国民健康保険事業の健全運営 | | | | | | | | |
| 目 | 01 保健事業費 | 区分 | 01 医療費適正化の推進 | | | | | | | | |

2 事業の根拠

| | | |
|-------------|-----------------------------|--------|
| 法律・政令・省令 | | 法定受託事務 |
| 県条例・規則・要綱等 | | |
| 市条例・規則・要綱等 | | |
| その他（計画、覚書等） | 昭和55年厚生省通知・昭和61年高知県福祉生活部長通知 | |

3 事業の目的・内容等

| | | | | |
|------|----------------|--|----------|-------------------|
| 対象 | 誰(何)を対象に | 高知市国民健康保険被保険者 | | |
| 意図 | どのような状態にしていくのか | 医療費通知及び後発医薬品（ジェネリック医薬品）差額通知の送付により、被保険者に医療費に対する認識を深めてもらい、健康に対する自覚を促すことで、医療費の適正化を行う。 | | |
| 手段 | 事業実施体制等 | 直営（一部を国民健康保険団体連合会に委託） | 事業開始年度 | 平成21年度（再開）・平成22年度 |
| | | | 事業終了年度 | |
| 活動内容 | どのような事業活動を行うのか | <ul style="list-style-type: none"> ●医療費通知の実施 ●先発医薬品使用者への後発医薬品切替時の差額通知の実施 | | |
| 成果指標 | 事業目的の成果を測る指標 | | 指標設定の考え方 | |
| | A | | | |
| | B | | | |
| | C | | | |

4 事業の実績等

| | | | 19年度(実績) | 20年度(実績) | 21年度(実績) | 22年度(計画) | 備考欄 | |
|-----------------|---------------|-----------|------------------|----------|----------|----------|-----|--------|
| 成果指標 | A | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| | B | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| | C | 目標 | | | | | | |
| | | 実績 | | | | | | |
| 投入コスト | ① 事業費 | 決算額 (千円) | 0 | 0 | 10,222 | 31,008 | | |
| | | 財源内訳 | 国費 (千円) | 0 | 0 | 0 | | 12,000 |
| | | | 県費 (千円) | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| | | | 市債 (千円) | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| | | | その他 (千円) | 0 | 0 | 0 | | 18,000 |
| | | | 一般財源 (千円) | 0 | 0 | 10,222 | | 1,008 |
| | 翌年度への繰越額 (千円) | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| | ② 概算人件費等 | 人件費等 (千円) | 0 | 0 | 1,500 | 1,500 | | |
| | | 正規職員 | (千円) | 0 | 0 | 1,500 | | 1,500 |
| | | | その他 (千円) | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| | | | 人役数 (人) | | | 0.20 | | 0.20 |
| | | 正規職員 | (人) | 0.00 | 0.00 | 0.20 | | 0.20 |
| | | | その他 (人) | 0.00 | 0.00 | 0.00 | | 0.00 |
| | | | 総コスト= ① + ② (千円) | 0 | 0 | 11,722 | | 32,508 |
| 市民1人当たりコスト (円) | | 0 | 0 | 35 | | | | |
| 年度末住民基本台帳人数 (人) | 341,544 | 340,695 | 339,714 | | | | | |

当事務事業は、国保被保険者のみを対象に、国保料で実施される事業であり、参考値

5 成果指標で表せない事業成果・市民満足度・その他課題点等

医療費の動向は、本市の施策以外にも社会的要因を大きく受けやすく、各施策単独の適正効果額の算出は不可能である。

6 1次評価（所属長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 16 日）

| 評価項目 | | 評価基準 | 1次 平均 点数 | 評価内容の説明 | |
|----------|---|--|--|---------|---|
| 事業実施の必要性 | ① 〔施策体系等での位置付け〕 事業の実施が市の総合計画・実施計画・市長マニフェスト等の目標達成に結びつくか、又は、事業の根拠等に結びつくか | A (5) 結びつく B (3) 一部結びつく C (1) あまり結びつかない D (0) 結びつかない | A | 5.0 | 医療費適正化は、国民健康保険の運営上の重要な課題である。 被保険者が、自身の医療費について認識を深めていただき、健康増進につなげていくことを狙っているが、近年、ジェネリック医薬品の使用による自己負担の削減についても関心が高まっており、差額通知の実施により医療費適正に努めていきたい。 また、二次的な効果として、被保険者が自身の医療費を確認することにより、不正請求を抑止する効果もあり、各種通知は必要と認識している。 |
| | ② 〔市民ニーズの傾向〕 事業の実施に対する市民のニーズ（需要量）の傾向はどうか | A (5) 非常に多い、急増している B (3) 横ばいである C (1) 少ない、減少している D (0) ほとんどない | | | |
| 事業内容の有効性 | ③ 〔成果の達成状況〕 事業の成果指標の達成状況は順調か | A (5) 十分に達成している B (3) 概ね達成している C (1) あまり順調ではない D (0) 十分な成果を望めない | B | 3.0 | 医療費適正化の数値的検証は、医療費の動向に様々な社会要因が関与していることから不可能とされているが、ジェネリック医薬品等については被保険者の問い合わせも多く、市民ニーズ沿った事業展開を行っている認識しており、業務目標に対して、概ね成果があると判断している。 |
| | ④ 〔事業の手法・活動内容〕 事業成果の向上のための手法・活動内容の妥当性 | A (5) 妥当である B (3) 概ね妥当である C (1) 検討の余地がある D (0) 見直しが必要である | | | |
| 事業実施の効率性 | ⑤ 〔アウトソーシングの可能性〕 事業の実施にかかる民間活力利用の可能性 | A (5) 実施済・できない B (3) 行政主体が望ましい C (1) 検討の余地はある D (0) 十分可能である | B | 4.0 | 現時点において、ジェネリック差額通知は、国民健康保険団体連合会に業務委託を行っている。 医療費通知については、現在直営で行っているが、県下市町村での広域実施などについて検討を行った結果、現在よりコストが高くなることが判明し、現段階では費用対効果の観点から現行維持が適切と判断している。 |
| | ⑥ 〔事業統合・連携・コスト削減〕 類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性 | A (5) 現状が望ましい・できない B (3) 概ね効率的にできている C (1) 検討の余地がある D (0) 十分可能である | | | |
| 事業実施の公平性 | ⑦ 〔受益者の偏り〕 事業の受益者が特定の個人（団体）等に偏りがなく公平性が保たれているか | A (5) 極めて公平性が高い B (3) 概ね保たれている C (1) 偏っている D (0) 公平性を欠いている | A | 5.0 | 各通知とも、同一条件下に合致する被保険者に対して送付されており、特定団体・個人への偏りは認められない。 また、両事業とも、事業費の大半が特定財源で措置されており、被保険者の受益者負担は適正と判断している。 |
| | ⑧ 〔受益者負担の適正化〕 事業実施の財源として、受益者負担割合（一般財源負担割合）は妥当か。補助金等交付事業の場合、対象経費は妥当か。 | A (5) 適正な負担割合である B (3) 概ね適正な負担割合である C (1) 検討の余地がある D (0) 検討すべきである | | | |
| 総合点 | 17.0 | 総合評価 | ○ A 事業継続 (総合点が16点以上で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) B 経費削減に努め事業継続 (総合点が12点以上16点未満で、各項目の平均点数がいずれも2点を超える場合) C 事業縮小・再構築の検討 (総合点が4点以上12点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで2点以下がある場合) D 事業廃止・凍結の検討 (総合点が4点未満 又は 各項目の平均点数のいずれかで1点以下がある場合) | | |

7 2次評価（部局長評価）

評価日（平成 22 年 9 月 30 日）

| 総合評価 | 評価理由・今後の方向性等 |
|---------------|------------------------|
| ○ A 事業継続 | 1次評価のとおり、事業効果を検証しつつ継続。 |
| B 経費削減に努め事業継続 | |
| C 事業縮小・再構築の検討 | |
| D 事業廃止・凍結の検討 | |

8 特記事項

| |
|--|
| |
|--|